

## 第106回経営協議会議事録

日 時 平成31年2月20日（水）11時00分～11時55分

場 所 特別会議室

出席者 (学外委員)

岩波委員、白井委員、高村委員、竹岡委員、長友委員、野々村委員、森口委員

(学内委員)

福田学長、中野理事、田中理事、木野理事、川中理事、新情報理工学域長、

田野情報理工学研究科長

(オブザーバー)

由良副学長、阿部副学長、渡邊副学長、椿副学長、松山監事、名取監事、

酒井内部監査室長

### 第105回経営協議会議事録報告承認

#### 議 題

##### □審議事項

1. 2019年度予算編成方針等について

(資料①-1～2)

##### □報告事項

1. 2019年度政府予算案の本学編内示について

(資料②)

2. 電気通信大学（UEC）基金について

(資料③)

#### 議 題

審議事項1 2019年度予算編成方針等について

川中理事から、2019年度予算編成方針及び間接経費等の活用方針に関する改正案について説明があり、これを了承した。

報告事項1 2019年度政府予算案の本学への内示について

川中理事から、2019年度政府予算案の本学への内示について報告があった。

出された意見は次のとおり。

(長友委員) 今後を見据えた財務基盤の強化についての改革③に人件費が高止まりしているため、非常勤も含め新たに雇用しないとありますが、その要因はなにか。

(福田学長) 高止まりは絶対量というより、人件費率が高止まりしている。  
必要な人事は現在も行っており、それを精査することは今後も必要となるでしょう。人件費率を下げ、収入全体を増やす努力をしないと今後の経営は成り立ってはいかないだろうということで、人を減らすということではない。

高い水準になった理由としては、必要な事業及び必要な部署での人事を行ってきたと

ということが一つあり、外部資金の獲得が限られていたということもあると思っている。

(野々村委員) 今後を見据えた財務基盤の強化についての改革1で、1人あたりの研究教育資金獲得額や経営資金獲得額が他大学に比べ、低い水準にあるが、各教員が高く研究を引き受けられるような具体的な取組みが必要じゃないか。掲げた金額の目標をどのように具体的に達成できるかが難しく感じる。

(福田学長) 相対順位の低い理由として、国のプロジェクトの研究経費が除かれているためである。本学は全国的に見ても国のプロジェクトに関する受託研究経費というのは非常に大きく、上位に入っている。確かに民間資金は弱いですが、本学の研究分野で研究を推進している一つの手法として、国の政策にのっとった先端的な部分が課題として出されるような事業が多いためである。そのアンバランスが存在しているのは事実で、国のプロジェクトへの注力を抑えず、民間企業への組織的なアプローチを考えており、具体化はこれからしていくところである。

## 報告事項2 電気通信大学（UEC）基金について

木野理事から、平成31年2月8日現在の寄附状況について報告があった。

(閉会 11時55分)

### [配付資料]

- ①-1. 2019年度予算編成方針（案）
- ①-2. 間接経費活用方針（案）
- ②. 2019年度国立大学法人運営費交付金の重点支援に係る評価結果について
- ③. 電気通信大学（UEC）基金の状況